



N.T.

## 佛教幼稚園界の展望

青 柳 義 智 代

戦後の仏教関係幼稚園の増加は実に目覚ましいものだ。春を迎えて曠野の草木が、一斉に芽生えるに似たような壮観で、都会地に於てはどの寺院も競って幼稚園を計画し、堂々とした園舎の建築を初め出した。そのためところに依つては隣同志の寺院が同時に幼稚園を始めて、おたがいに経営上苦勞するような事態も起つて来ている。

なぜ、戦後急に寺院が幼稚園の設置を考え出したかと云うと、社会勢の激変から従来の寺院経営が困難になつて来たからだ。かつては仏事と所有地にて、充分安定した生活が営まれていたのでそうした附帯事業など全く考えず住職は専ら仏事のみに従事して、御堂深くひたすら法燈を守つて過せたものだった。然し現在には到底従来態度では寺院は経営出来なくなつてしまつた。そのため一斉に社

会と取組む仕事に手を染めなければならぬのである。その事業としては、最も手ごろのものは即ち幼稚園であると云う訳である。幸いに寺院のそうした転機に相応じて、幼稚園は学校として新しい地位が与えられて、幼稚園教育への社会的要望が急激に高まつて来たことは、一層寺院の事業要求を満して来たものである。寺院には幼稚園設置に先ず必要な土地を、境内に持つていたことは、実に強味である。特に都会地に於てはその土地を獲得することが最大の難関で、土一升金一升と云われているだけに、二〇〇坪前後からの更地は、安々と得られるものではない。ところが寺院境内には少し植木でも整理すれば皆その位な余地が出て来る。伝統の仏教勢力の強味である。あとは建物であるが、寺院経営の困難を承知している

檀信徒は寺院の経営の安定のためには、またこぞって賛同し後援をおしまなかつた次第である。

そうした条件が揃っている以上、寺院の経営の幼稚園が急激に増加することは当然である。どの寺院も一斉に目を覚まして立ちあがるように幼稚園を設置したものである。だから東京都内に於ては、区によって三分の二は寺院経営の幼稚園であると云う仏教保育の隆盛をみるに至っている。

かつては、宗教関係の幼稚園ではキリスト教が一步の先輩であった。日本の幼稚園発祥の歴史をみても、キリスト教幼稚園が先ず誕生している。そして明治、大正時代はずっと主導的立場を持続して既に全国的な組織をもち活動していたものだ。その時代は、仏教、神道の幼稚園は微々たる存在であった。全国的な組織もなく、相互の連絡もない、心細い経営を続けていたものだ。

現在と比較して隔世の感がある。施設に於て広大な幼稚園敷地に新しい専用園舎を有していること、そして実数また、キリスト教関係幼稚園を超えていることなどを思うと、戦後の仏教幼稚園の隆盛は夢のようである。

然しながら、実数並びに施設設備の優位は、そのまま幼児教育の実績とは言えない。それは形態である。就いては今後は内容の充実に専心しなければならぬ。形だけ整っていてもまた優れていても、内容が伴わなければよいとは言われない。殊に教育事業であるから教育内容の充実が主眼であつて、形態はその大目的の条件に過ぎない。仏教幼稚園界は未だ、その充実には残念乍ら欠けていると思

う。殊に仏教界の欠点として独尊的になり易く、少し設備でもよいと、「天下の幼稚園」と考え易い。そして幼稚園界には仏教だけでなく神道もキリスト教関係の幼稚園もあり、更に国立、公立の全国五千数百校の幼稚園のあることを忘れがちになる傾きがある。幼稚園は日本の学校教育大系の一つの事業であることを銘記して宗門の幼稚園仏教の幼稚園だけに目を向けずに、広く全日本の幼稚園教育界の現状と動向に視野を広げ度いものである。そして施設設備の充実と共に、教育内容の充実に専心して、仏教幼稚園は名実共に日本幼稚園の主導的立場に立つよう念願し度いものである。

尙仏教保育の全国的な組織として、昭和四年に設立された日本仏教保育協会がある。大正末期から昭和にかけて、仏教関係の若い世代の人々が教化の対象を児童におくようになり、日曜学校、コードモ会がすばらしく隆盛になった時代がある。それに慥きたらず、更に固定し安定した児童教化事業に進んで着手し出した。それが幼稚園、保育園の開放である。その氣運が結集されたのが、仏教保育協会の誕生である。設立以来、日本仏教保育の興隆と発展のため各種の事業を行つて来たが、余り活潑な活動をして来たとは言えなかつた。しかし、戦後の仏教幼稚園界の隆盛は新たな生氣を協会に与えることとなつて近年極めて活潑な活動を開始しつつある。仏教幼稚園界をスッキリと全国的にまとめて、その充実発展のために調期的な役割りを果たす日も近いと考えている。仏教幼稚園界の黎明期を迎えていることを心から嬉しく思うものである。

(日本仏教保育協会顧問・宝仙大学)